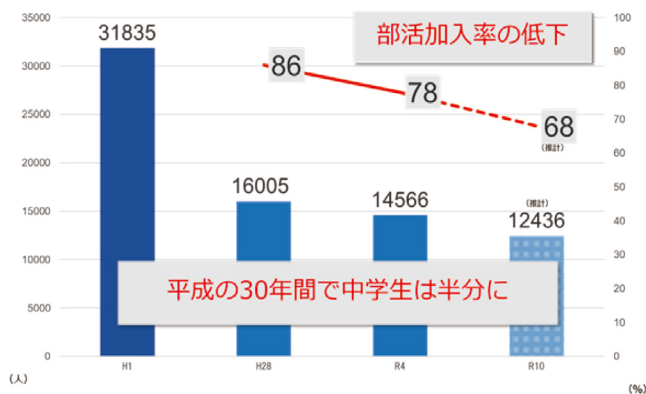


静岡市の新しいブカツ「シズカツ」

～学校部活動からの円滑な地域展開を目指して～

はじめに

静岡市の中学生は、平成の30年間で半減し、学校規模の縮小に伴い、部活動の休廃部が進み、子どもたちの選択肢や部員数の減少、指導者不足といった課題が顕著になってきました。



従来为学校単位での部活動のままでは、有意義な活動を維持することは難しいと考え、将来にわたって、本市の子どもたちの活動機会を保障していくための改革に取り組んでいます。

1. 改革を進めるにあたって

(1) 7,581名アンケート調査から

改革を進めるにあたり、まず生徒や教員、保護者へのアンケート調査及び種目団体など関係団体へのヒアリングを実施し、実態や課題を把握しました。

中学校への入学を控えた市内小学6年生へのアンケートを通してわかったことは、学校規模による機会格差です。中規模校及び小規模校へ進学する児童の2人に1人が「進学予定の中学校には、入部したい部活動がない」と回答し、学校規模による機会格差が浮き彫りになりました。

Q 入学予定の中学校の部活動にやりたい種目はありますか

隣の学校にはやりたい種目があるのに



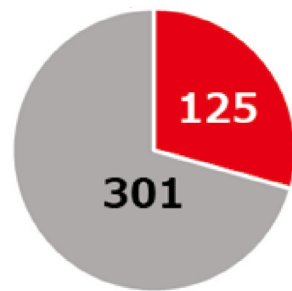
さらに11学級に満たない学校では、



また、現在活動中の部活動においては、全体の3割にあたる125部が10人以下で活動しています。部員数の減少を受け生徒アンケートからも、「練習内容がワンパターン」「活動が盛り上がらない」「試合メンバーが揃うか不安」など、部員不足により有意義な活動ができていないことが見えてきました。

Q, 10人以下で活動している部 (R5. 8)

多様な練習ができない、メンバーが揃うか、



全体の3割が10人以下で活動

さらに、教員による指導体制においては、約半数が未経験の種目を担当しており、ケガなど安全面や技術面など、指導への不安を訴える声があがっています。

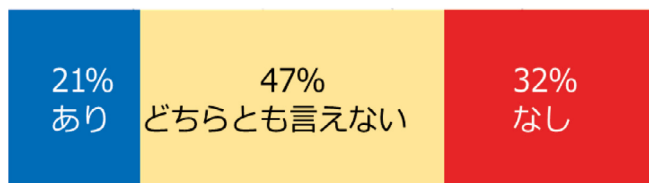
◆顧問の競技経験(R1)

51% 経験なし 49% 経験あり

◆部活動数に対する顧問数(R3)

12校 不足 31校 充足

Q、部活動指導に自信がありますか。



Q、部活動指導で負担に感じること

| | |
|---|---------|
| 1 | 大会運営、準備 |
| 2 | 休日の活動 |
| 3 | 部員のトラブル |

Q、部活動指導で課題や不安とを感じること

| | |
|---|--------------|
| 1 | ケガ、安全管理 |
| 2 | 校務との両立（時間確保） |
| 3 | 専門的な技術指導 |

また、子どもたちや保護者は、適正な活動時間の中で、自身の興味のある種目に主体的に取り組むことや仲間とのつながりを築くことができる活動であることを望んでいることが調査から見えてきました。

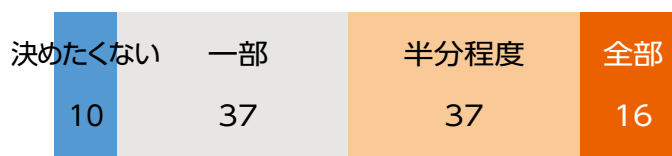
Q、活動を充実させるために必要だと思うこと〈R4生徒〉

| | |
|---|------------------|
| 1 | チームのまとめ、仲間とのつながり |
| 2 | 専門的な技術指導ができる指導者 |
| 3 | 自主的・主体的な活動であること |

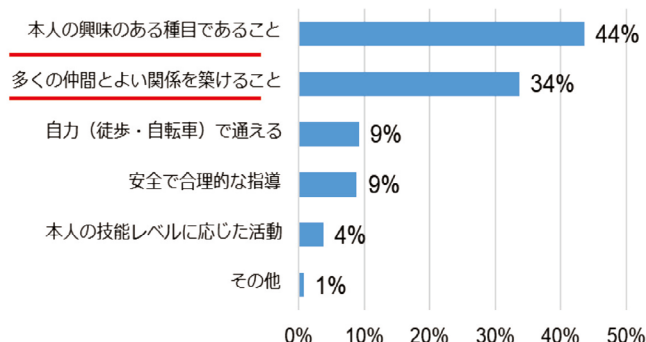
Q、どんな部活動なら入りたかったか〈未加入生徒〉

| | |
|---|-------------|
| 1 | 学習や趣味と両立できる |
| 2 | 友達と気軽に楽しめる |
| 3 | 活動時間が適切 |

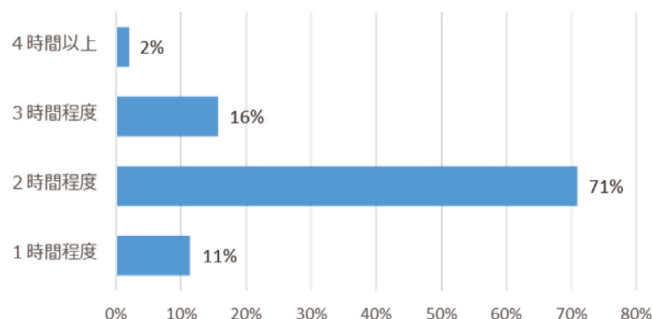
Q、練習内容や試合メンバーなど自分たちでどの程度決めたいか



Q、お子様が活動に取り組む際に重視することは何ですか〈R4保護者〉



Q、1回の活動に対して適正な時間〈R4保護者〉



こうした現状を踏まえ、将来にわたって本市の子どもたちの活動機会を保障するには、部活動に代わる新たな活動の場を創出することが必要であるという結論に達しました。

(2) 3つの価値を共有

本改革がすべての関係者にとって、有意義なものとなるよう「大切にしたい価値」や「地域展開によって期待する効果」について協議しました。その中で「学校規模や家庭状況に左右されることなく、スポーツ・文化芸術に親しめる機会を保障すること」「活動を通して、主体性や社会性を育む、人間的な成長の場とすること」「共働き家庭や核家族化が進む中でも、中学生にとって有意義な居場所を確保すること」の3つを『大切にしたい価値』として整理しました。

スポーツ・文化活動の機会 + **学校規模による機会格差解消**
●家庭状況に左右されない
●生涯にわたって親しむきっかけ
専門性、安全性の保障

人間形成 + **多様な大人からの学び**
●仲間とともに主体的・協働的な活動

居場所づくり + **地域のコミュニティ**
●共働き家庭、核家族化の中、有意義な「居場所」

一方、市内には実施主体として想定される総合型地域スポーツクラブ、民間クラブチーム、中学生を対象とした少年団などの拠点数が十分でなく、市内の中学生を受け入れる体制整備には多くの時間を要することが考えられました。

そこで、静岡市は、3つの価値を維持するため、地域クラブ「シズカツ」を市が主体となって創設することとしました。

2. 部活動改革「シズカツ」とは

シズカツは学校管理下の活動ではなく、市の事業としてスポーツ・文化芸術活動を実施していきます。

シズカツの特色は、エリア制と経験ある指導員の配置です。



エリア制とは、市教委が定めた近隣校グループにおいて、チームを編成するものです。本市は市内43中学校を15エリアに編成しており、エリア内の中学校の生徒なら誰でも参加できます。

さらに、シズカツには経験ある指導員を配置します。本活動に賛同する地域人材や兼業教員を想定しており、一定の研修の受講を必須とします。これにより、子どもたちが技術的にも教育的にも専門的な指導を受けられる体制を整備していきます。

また、指導員任せにならないよう、活動方針を明確に示すとともに、エリアを統括するマネージャー制度などの設置も検討しています。

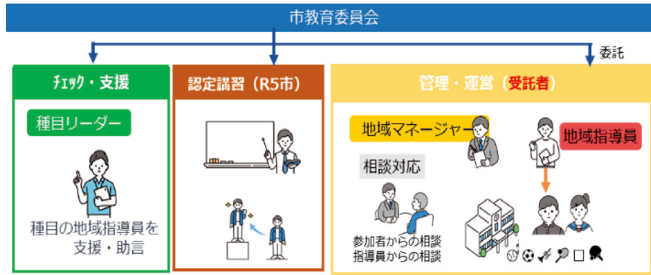
3. 「シズカツ」への段階的な取組

本事業を静岡市第4次総合計画に位置づけました。令和5年度から8年間の計画の中で、健全で持続的な体制を構築し、令和12年度には、「部活動」に代わって「シズカツ」の全日展開を目指します。まずは令和8年度までに休日において部活動に代わりシズカツを全市展開していきます。



令和5年度から2年間で健全で持続可能な体制づくりのための実証期間として位置づけ、令和5年度は、以下の3つの試行を開始しました。

- ①種目リーダーによる訪問指導を実施し、生徒の安心安全な活動を保障するチェック体制や指導員の相談体制の有効性を検証する。
- ②指導員に対して講習会を開催し、指導員の資質を担保するために有効な講習の在り方や運用面の課題を探る。
- ③休日の活動を学校管理外として、受託者が「シズカツ」の管理運営を行い、運営体制の確立、指導員や学校の負担を把握する。



これらの成果と課題をもとに、令和6年度の実践につなげていきたいと考えています。

おわりに

今まで子どもたちのスポーツ・文化芸術活動を担ってきた部活動から「シズカツ」への展開するためには、子どもたちを中心に据えて、市・学校・保護者・関係団体・地域住民など関係者の協力のもと、それぞれの立場で活動を支えていただくことが重要と考えます。

まずは、市が主体となって、地域住民や関係団体からの賛同参画を得ていくとともに、関係者にとっても意義ある活動にしていかなければならないと考えています。ひとつづくり、まちづくりにつながる貴重な地域資源となる可能性を秘めた「シズカツ」の全市展開に向け、関係者の声を大切に、着実に構築していきたいと思います。

